

平成 21 年 11 月 25 日

報道関係者各位

アフガニスタンの和解と平和に関する円卓会議
～「支えあう安全保障 (Shared Security)」をめざして～
記者会見のご案内

(財) 世界宗教者平和会議日本委員会
「支えあう安全保障」日本議員連盟

財団法人世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会と「支えあう安全保障」(Shared Security) 日本議員連盟 (JPSS) は、日本国外務省の協力で 11 月 23 日から都内でアフガニスタンの和平に向けた会議を行っています。

会議は現在のアフガニスタンの状況に対し、アフガニスタン、パキスタン、イラン、サウジアラビア、EU などの外交問題担当者、学者、宗教者などを日本に招き、民間レベルでの相互信頼醸成に向け対話の場を提供したものです。

最終日の本日、外務省を訪問、岡田外相に会議で採択された提言書を提出します。

また、提言書提出後の 25 日 17 時 20 分から、参議院議員会館第 6 会議室で、会議参加者の代表が同会議の内容や提言書についての記者会見を行います。

なおこの会議は、出席者の安全の確保と討議の自由性を考慮し、今まで非公開とさせていただいておりました。多数のメディアの皆さまからのお問合せをいただきながら、お応えできなかったこと、突然のご案内となりましたことに対し深くお詫び申し上げますとともに、何卒上記事情をご推察の上、よろしくお願ひ申し上げます。

記

日 時：平成 21 年 11 月 25 日 (水) 17 時 20 分～18 時 (予定)

場 所：参議院議員会館第 6 会議室 (参議院議員会館仮庁舎 2 階)

内 容：1. 会議開催の趣旨説明及び会議に至った経緯

2. 会議内の内容と提言書の説明

3. 質疑応答

など

会見者：フランセスク・ベンドレル (元 EU アフガニスタン特別代表)

ムハンマド・マスーム・スタナクザイ (アフガニスタン大統領顧問)

伊勢崎賢治 (東京外国語大学大学院教授)

眞田 芳憲 (WCRP 日本委員会平和研究所所長)

ウィリアム・ベンドレイ (WCRP 国際委員会事務総長)

犬塚 直史 (参議院議員 JPSS 会長代理)

白 眞勲 (参議院議員 JPSS 事務局長)

以上

外務大臣訪問者一覧

(平成 21 年 11 月 25 日)

面会代表者 (6名)

宮本けいし

世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会事務総長

ムハンマド・マスーム・スタナクザイ

アフガニスタン大統領顧問

フランセスク・ベンドレル

元 EU アフガニスタン特別代表

グレアム・ラム卿

ISAF 司令官付社会復帰アドバイザー

伊勢崎賢治

東京外国語大学大学院教授

犬塚直史

参議院議員、「支えあう安全保障」日本議員連盟(JPSS)会長代理・総合司会

**RECOMMENDATION
FROM
THE ROUNDTABLE DISCUSSION ON RECONCILIATION AND PEACE
PROSPECTS FOR SHARED SECURITY IN AFGHANISTAN**

TOKYO

23-25 NOVEMBER 2009



Introduction:

Participants at the roundtable greatly appreciated the efforts of the Japanese Government in the process of peace building and reconstruction in Afghanistan. They also welcomed the initiative of the World Conference of Religions for Peace (WCRP) Japanese Committee, Japanese Parliamentarians for Shared Security (JPSS) and Ministry of Foreign Affairs of Japan which provided the opportunity for the participants to discuss peace and stability in Afghanistan.

Over the past three days, issues concerning Afghanistan, the international community and Afghanistan's immediate neighbours were discussed. The conference recognised the pressing need to address peace, reconciliation and reintegration as part of the wider effort to stabilise Afghanistan.

Throughout the roundtable discussion, various points were raised by the participants and some key elements were identified. These key elements for the way forward in Afghanistan need to be addressed in the most effective manner. Therefore the participants propose the following recommendations.

1. **Afghan-Led Process.** Participants emphasised the need to support the priorities of the Afghan government. At the same time the Afghan Government-led efforts must be recognised and fully supported by the international community to promote peace and stability. The participants recognised the importance of the Loya Jirga and the proposed Peace Jirga including community based organizations as important and traditional Afghan mechanisms for reconciliation and peace. The democratization process in Afghanistan provides an opportunity to move forward with the reintegration of elements of the insurgency into civilian life and Afghan political processes under the Constitution including the upcoming parliamentary election. Strengthening Afghan institutions will ensure long-term peace and stability. The need to include civil society and women was highlighted.
2. **Japan's Role.** Since Japan enjoys an excellent reputation with Afghanistan and the immediate neighbours of Afghanistan, it is highly desirable that Japan play a key role within the international community in supporting the peace and reintegration programme led by the Afghan government. The participants welcomed measures for aid effectiveness that ensure transparency, accountability and more effective results that would enable the government of Japan to continue to provide support to the rebuilding of Afghanistan.
3. **Regional Cooperation:** Terrorism is a global problem and countries suffering from terrorism should work together to address these issues. Regional cooperation on security and addressing the common threats of terrorism, drugs, organised crime, and the smuggling of weapons is important for promoting shared security in the region. The important role of Pakistan's cooperation in the Afghan peace process was stressed. A regional consensus will contribute to peace and stability in the region. Such consensus should be maintained and promoted in the face of common threats and shared economic interests. The value of mechanisms for cooperation among Afghanistan, the region, and the wider international community was highlighted
4. **Role of Islamic States:** The participants called for increased cooperation among Islamic states to prevent the spread of radical groups that promote violence, and to advance the reform of madrassas and other efforts at de-radicalisation to help individuals or groups to break the cycle of violence (including the denouncing of suicide bombings and drug trafficking as un-Islamic practices). Therefore, it was proposed that WCRP facilitate gatherings of prominent Islamic scholars to engage Islamic teachings to promote peace and reconciliation in Afghanistan. The participants affirmed the importance of the good offices of His Majesty King Abdullah bin Abdul

Aziz Al Saud, the Custodian of the Two Holy Mosques, as requested by the Afghan Government, to utilize His Majesty's influence as a political and religious leader to help the process of peace-building in Afghanistan.

5. **Comprehensive Approach:** The participants also identified that a top-down (political and strategic level) reconciliation process and bottom-up (tactical and operational level) reintegration approach will ensure success. They recommended that peace and reintegration initiatives should be part of the broader and comprehensive strategy, well-coordinated and broadly supported both by Afghans and international partners.
6. **Reconstruction Efforts:** Military force alone will not defeat the insurgency. The Afghan Government, drawing on best practices, needs to carry out the long term development program necessary to make reintegration and reconciliation lasting and sustainable. However, distinguishing between the reconcilable and irreconcilable elements of the insurgency will allow us to devise a strategy that will bring greater synergy between military and civilian force to stabilize Afghanistan. Success of reconstruction efforts such as poverty reduction, socio-economic development, anti-narcotics, anti-corruption, and aid efficiency will contribute to the stabilisation of Afghanistan.
7. **UN Role:** Participants reiterated the important role of the United Nations in the peace and reconciliation process as mandated by the UN Security Council. With regard to the Sanctions List included in UNSCR 1267, the participants called for greater flexibility in amending and updating the list, to allow individuals to be added or removed from the list. In particular there needs to be a clear process for removing the names of those who renounce violence and can contribute significantly towards peace and reconciliation
8. **NATO/ISAF Role:** The participants appreciated the renewed NATO/ISAF commitment to support the peace process and reintegration in particular and called for closer coordination with relevant Afghan institutions.

提言

アフガニスタンの和解と平和に関する円卓会議 ～「支えあう安全保障 (SHARED SECURITY)」をめざして～ (仮訳)

平成 21 年 11 月 25 日

序文

本会議の参加者はその総意として、アフガニスタンにおける平和構築と復興への日本政府の取り組みに深い感謝の意を表するとともに、本会議においてアフガニスタンの平和と安定について語り合いの場を提供した世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会、「支えあう安全保障」日本議員連盟 (JPSS) 及び日本国外務省の取り組みを歓迎する。

過去 3 日間の語り合いの中で、アフガニスタンに関する問題、国際社会の問題、そして近隣諸国の問題が話し合われた。その結果、アフガニスタンの安定をめざすより広範な取り組みにおいて、平和、和解そして社会復帰が重要な要素であることが再確認された。

会議では、参加者から様々な問題点や課題が挙げられ、これらが幾つかの主要素に集約された。本会議参加者はその総意として、これらの主要素について最も効果的な取り組みを行うことが、今後のアフガニスタン情勢を進展させるものであることを確信し、以下提言する。

1. アフガニスタン主導のプロセス：

本会議の参加者らは、アフガニスタン政府の優先事項を支援する必要性を強調した。また同時に、アフガニスタンにおける平和と安定を推進するにあたっては、同国政府主導で行われる取り組みについて国際社会の一致した支持が必要であることも再確認された。さらに参加者らは、コミュニティ・ベースの地方組織を含むロヤ・ジルガ (Loya Jirga) やアフガニスタン政府が提案するピース・ジルガ (Peace Jirga) 等、同国における伝統的な和解と平和の仕組みの役割が重要であることを認識した。アフガニスタンにおける民主化プロセスは、一部の反政府勢力に対する社会復帰の機会を増進させるものであるとともに、次期総選挙を含む憲法に従って行われる政治参画プロセスにも寄与するものである。同国政府機関・機構を強化することにより、長期的な平和と安定が担保されるのである。最後に、女性や市民社会の参画を推進することも重要であることが確認された。

2. 日本の役割：

アフガニスタン及びその近隣国において日本が高い評価を得ているという現実を踏まえ、日本が他の主要ドナー国とともに、アフガニスタン政府が主導する平和と和解に関するプログラムを支援する中心的役割を果たすことを強く期待する。会議の参加者らは、日本政府が今後もアフガニスタンの復興に貢献できるよう、支援の透明性、アカウンタビリティ（説明責任）、そして実のある結果を確保する、支援の効果的な実施を可能にするような仕組みを導入する提案を歓迎した。

3. 地域間協力：

テロは地球規模的な問題であり、テロに悩む国家は他ともにこの問題に取り組むべきである。地域安全保障、及びテロ、麻薬、組織的犯罪、及び武器密輸などの共通の脅威に対する地域間協力は、地域の「支え合う安全保障」を推進するにあたり重要である。会議では、アフガニスタン平和構築プロセスにおけるパキスタンの協力の重要性が強調された。地域におけるコンセンサスの醸成は、地域の安定と平和に寄与する。脅威や経済的関心が共有される中では、このようなコンセンサス維持推進されるべきものである。会議では、アフガニスタン、周辺地域及び国際社会において、協力と連携の仕組みを確立することの重要性が再確認された。

4. イスラム諸国の役割:

会議の参加者は、過激派組織による暴力の拡大を防ぐため、イスラム諸国間のいっそうの協力推進の必要性を唱え、個人あるいは集団が暴力の連鎖を断ち切れるよう、マドラサ（神学校）改革等の穏健化政策（de-radicalization）、すなわち自爆テロや麻薬密売等の非イスラム的な活動の否定のいっそうの推進を訴えた。結論としては、アフガニスタンにおける平和と和解を推し進めるため、会議では世界宗教者平和会議（WCRP）を推進役に、著名なイスラム法学者を召集して正しきイスラムのあり方について教えを広めることが提案された。会議の参加者は、アフガニスタンにおける平和構築のため同国政府の要請を受け、陛下のお力により政治・宗教指導者に対して力添えされた二聖モスクの守護者アブドゥラー・ビン・アブドルアジーズ・アール・サウード国王閣下の調停が果たした役割の重要性を再確認した。

5. 包括的アプローチ:

会議の参加者らは、和解プロセスにおいては政治的および戦略的レベルでのトップダウンのアプローチを実施し、社会復帰プロセスにおいては戦術的および作戦レベルでのボトムアップのアプローチを実施することが包括的アプローチの成功の鍵であると確認した。参加者らは、平和と社会復帰の取り組みはより広範で包括的な戦略の一環として、アフガニスタン当国並びに関係各国の全幅の支持を得て効果的に行われるべきものであると提案した。

6. 復興支援の取組み:

軍事力のみでは反政府勢力に打ち勝つことはできない。アフガニスタン政府は、過去のベストプラクティスに学び、恒久的で持続可能な社会復帰と和解を可能にする長期的な開発プログラムを実施する必要がある。反政府勢力の人間を和解可能な者と和解不可能な者との区別する方法が確立されれば、軍事と文民の間に多大な相乗作用（synergy）をもたらす戦略を策定することが可能となる。復興支援策の成功、すなわち貧困削減や社会経済開発、麻薬対策、腐敗対策及び支援効率の向上等の成功は、アフガニスタンの案的に確実に寄与するであろう。

7. 国連の役割：

会議の参加者らは、平和と和解プロセスにおける、国連安全保障理事会決議に基づく国連の活動とその役割の重要性をあらためて表明した。国連決議 1267 に含まれる資産凍結措置対象リストについては、対象者の追加や削除を可能にするその修正と更新を可能にするいっそうの柔軟性が必要であると提唱した。とくに、暴力を放棄しかつ平和と和解に貢献できる人物については、これらの人物を除外する明確なプロセスが必要であるとした。

8. NATO/ISAF の役割：

本会議参加者らは、特に平和と社会復帰のプロセスを支援する NATO/ISAF の新たな取り組みに謝意を表し、アフガニスタンの関係諸機関とのより親密な協調を求めた。